

8・仕 様

名 称	YVA-40	YVA-50	YVA-65	YVA-80	YVA-100
口 径	40A	50A	65A	80A	100A
最 大 流 量	450L/min	700L/min	1200L/min	1800L/min	2100L/min
使用圧力範囲	0.15～1.4MPa	0.15～1.4MPa	0.15～1.4MPa	0.15～1.4MPa	0.15～1.4MPa
圧力損失値 (直管相当長)	11.7m	15.8m	23.7m	25.4m	36.6m
取 付 方 向	縦横両用	縦横両用	縦横両用	縦横両用	縦横両用
質 量	10.9kg	13.4kg	19.0kg	22.7kg	47.0kg
型 式 番 号	開第16～8号	開第16～9号	開第16～10号	開第16～11号	開第16～12号



文書番号 TS00015-1

取 扱 説 明 書

一斉開放弁（減圧型） YVA型

●この商品についてのお問い合わせは、
ご購入の販売店または当社フリーダイヤルへ……

▶フリーダイヤル



0120-801084 *お客様相談窓口
受付時間・平日9:00～17:00

この度は、一斉開放弁（減圧型）YVA型をご採用いただき、誠にありがとうございます。
本製品を安全かつ適正にご利用いただくため、据付け前に必ずお読み下さい。

安全と確実な防災活動のためのご注意

安全のために、必ずお守り下さい。

ここに示した注意事項は、守らないと人身事故や家財・施設の損害に結びつくものをまとめて記載しています。安全と確実な防災活動に関する重要な内容ですので、必ず守って下さい。
防災活動に関わるすべての人がお読みになった後は、実際に管理を行われる方が、いつでも見られる場所に必ず保管して下さい。

⚠ 警告

この表示を無視して誤った取り扱いを行った場合、誤作動や作動支障により人が死亡または重症を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意

この表示を無視して誤った取り扱いを行った場合、誤作動により人が負傷を負う可能性及び物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

(1) すべての防災設備に関わる点検業務

防災設備の機能を維持し、万の際には十分に機能を発揮するために、整備及び点検を実施しなければなりません。それらの業務は、消防設備士または消防設備点検資格者といった有資格者に限られ、定期的な点検が義務付けられています。それら点検の方法は、二つに分けられています。

●機器点検（点検期間＝6カ月ごと）

- ・消防用設備等に附置される非常電源（自家発電設備に限る）や動力消防ポンプ等の設備が、正常に作動することを確認します。
- ・消防用設備機器の配置の適正、また損傷などを、主にその外観から判断し、点検基準によって確認します。
- ・消防用設備機器の正常性を、定められた基準に従い、簡単な操作によるチェックや、外観からの判別によって確認します。

●総合点検（点検期間＝年に1回）

- ・消防用設備の種類に応じて定められた基準によって、消防用設備機器の全部あるいは一部を動作させて、総合的な機能を確認します。

防災設備の品質を保ち、火災時に確実に作動させるために、必ず定期点検義務はお守り下さい。

(2) すべての防災設備に関わる注意事項

⚠ 警告

- ・取扱説明書を十分理解すると共に正しい取扱を厳守し、緊急時の使用に備えて下さい。緊急時に消火活動、停止活動及び避難活動等の対応が容易になります。
- ・定期点検制度に基づき、有資格者（消防設備士及び消防設備点検資格者）による定期点検が必要です。有資格者による定期点検を行わなかった場合は、正常な機能維持ができず緊急時の消火作業に支障をきたす可能性があります。
- ・防災設備を使用した場合は専門の業者に依頼のうえ点検、整備を受けて下さい。点検・整備を受けない場合、緊急時に正常な消火活動ができません。

●必ずこの取扱説明書を熟読し、理解してからご使用くださるようお願いいたします。

目次

1.はじめに	2ページ
2.構 造	3ページ
3.作 動	3ページ
4.設置前の注意	4ページ
5.施工上の注意	5ページ
6.維持管理上の注意	5ページ
7.取扱要領	6ページ
8.仕 様	7ページ

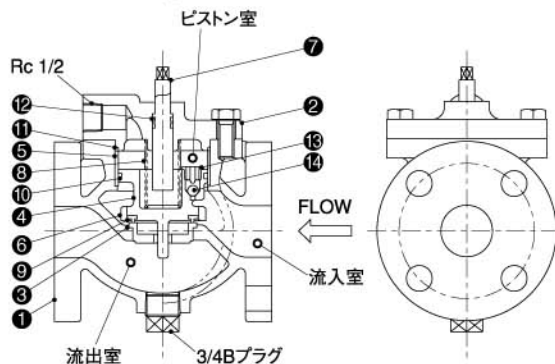
1・はじめに

一斉開放弁（減圧型）YVA型は、主として駐車場の泡消火設備に使用されるバルブであり、消防法第21条の4第2項の規定に基づき、一斉開放弁の技術上の規格を定める省令（昭和50年自治省令第19号）による試験に合格したものです。

一斉開放弁は、各放射区画ごとに設け、感知ヘッド（閉鎖型スプリンクラーヘッド）の作動による自動起動、或いは手動起動装置の操作による遠隔手動起動によって開放することができる減圧開型のバルブです。

2・構造

YVAの内部は、流入室（一次側）、流出室（二次側）、ピストン室の3つの区画で成り立っています。流入室と流出室は弁体（ピストン弁）④で仕切られています。また、ピストン室はライナー⑤と弁体④で構成されており、流入室に内蔵されています。弁体④には交換可能な良質の合成ゴム⑨・⑪を装着し、確実なシール性を持たせています。ふた②には、感知用配管と接続する孔（15A）があり、配管の向きによって90°ずつ4方向に向きを変えられるようになっています。



品番	部品名	材質	個数
①	弁 箱	FC200	1
②	ふ た	FC200	1
③	弁 座	CAC406	1
④	弁 体	CAC406	1
⑤	ラ イ ナ ー	CAC406	1
⑥	ゴム押さえ	CAC406	1
⑦	弁 棒	C3604B	1
⑧	パ ネ	SUS304	1
⑨	弁体用ゴム	EPDM	1
⑩	O リ ン グ	NBR	1
⑪	O リ ン グ	NBR	1
⑫	O リ ン グ	NBR	2
⑬	プ ラ グ	C3604B	1
⑭	球	SUS304	1

3・作 動

(1) 概 要

感知ヘッドおよび手動起動装置を取付けた感知用配管（15A）と一斉開放弁のふた②の孔を接続します。火災が発生しますと、感知ヘッドが作動開放もしくは手動起動装置の開放により、感知用配管内とピストン室の圧力が急減して、一次側からの圧力により弁体④が押し上げられて開放し、流体が二次側へ流れます。

(2) 弁の開放

一斉開放弁を待機状態にしますと、弁体④は、ピストン室に入った流体の圧力と弁体④の自重とパネ⑧の復力で閉じています。火災時には、感知ヘッドの作動開放もしくは手動起動装置を開けると、感知用配管内とピストン室の圧力が急減して、一次側の圧力により弁体④が押し上げられて開放し、流体が二次側へ流れます。

(3) 弁の閉止

テスト放水の後などに弁体④を閉止するためには、手動起動装置を閉めますと、弁体の孔⑭を通じて一次側から流れ込んでいる加圧流体により、感知配管内と弁体④内が蓄圧されて、やがて弁体④は閉止します。

4・設置前の注意

確 認	① 本製品は主に次の消火設備に使用して下さい。 ・スプリンクラー消火設備 ・泡消火設備 ・水噴霧消火設備 ② 本製品には次の消火液を使用して下さい。 ・水 砂、ゴミ等固形物の混入のないもの ・水成膜泡消火薬剤で国検品 ・たん白泡消火薬剤で国検品 ・合成界面泡消火薬剤で国検品 ③ 本製品は湿式専用ですので乾式には使用できません。
保 管	④ 本製品は、直射日光が当たる場所、高温・多湿になるような場所、振動の多い場所に保管しないで下さい。 ⑤ 本製品は、精密加工部品が組み込まれておりますので、丁寧にお取り扱い下さい。落とした場合は使用しないで下さい。弁棒の曲がりや漏れ発生の原因となります。 ⑥ 予備部品等は冷暗所に保管して下さい。 日光が当たるような場所ではOリングや樹脂部品の劣化が早まります。
設置場所 環 境	⑦ メンテナンスに必要なスペースを確保して下さい。 ピストン部のメンテナンスが必要となる場合を考慮して、本製品カバー部の周囲には少なくとも30cm程度の空間が必要です。 ⑧ 本製品の使用圧力範囲は、0.15～1.4MPaです。 この範囲を外れた場合には、所定の性能が得られません。 ⑨ 凍結のおそれのない場所に設置して下さい。管内の水の凍結により一斉開放弁本体が割れるなど機能を失う重大な原因となります。 ⑩ 凍結防止等のため、配管内に不凍液（膨張係数が大きいもの）等を入れると配管内の異常昇圧となる可能性があります。 ⑪ 設置場所の環境（直射日光や温度変化）により、感知ヘッド側配管内の圧力が異常に高くなる場合があります。配管内の異常昇圧は、本製品や感知ヘッド等の破損事故を招きます。その恐れが予想される場合には、感知ヘッド側配管に圧力異常上昇の防止措置を講じて下さい。防止方法としては、感知ラインに安全弁やアキュムレーター（エアークンバー）等の空気槽を据付け、さらに圧力計により圧力監視をしていただき、異常昇圧時には一斉開放弁を作動させないように注意しながら、極少量の水を抜いて圧力を正常の状態に戻していただくようお願いします。

5・施工上の注意

取 付	①一斉開放弁の取り付けを行う際は、危険防止のため、取付場所真下及び周辺には人の出入りがないように措置を講じて下さい。 ②本製品を取り付ける前に、本体内部に異物がないことを確認して下さい。機能を失う恐れがあります。 ③消火液の流れる方向に、本製品側面に表示されている流れ方向矢印を合わせて下さい。流れ方向と逆向きに取り付けると機能しません。 ④本製品の中央の弁棒は全閉で取り付けして下さい。 不用意に弁棒が開いていると思わぬ放水事故を招く恐れがあります。 ⑤横取付の場合、弁棒は上側になるように取り付けして下さい。 これ以外の向きにした場合、二次側の排水が完全にできません。 ⑥取り付け終了後、必要に応じた弁の開き具合を弁棒により調整して下さい。 閉のままでは消火液はできません。 ⑦弁棒を回す際は、強く回しすぎないで下さい。ネジを破損する恐れがあります。 ⑧重量物です。安全な姿勢、適切な工具にて取扱い願います。
配 管	⑨一斉開放弁の一次側には、必ず止水弁（仕切弁）を設けてください。 ⑩施工の際、配管内に異物が入らないように注意して下さい。 ⑪配管工事終了後には、貯水槽の清掃、ならびにフラッシング等により配管内の異物を取り除いて下さい。異物によって機能を失う恐れがあります。

6・維持管理上の注意

保 守	①使用圧力範囲内でご使用下さい。 特に夏場の天井面付近は高温になり、感知ヘッド側配管内が異常に高圧になることが予想されます。必要に応じた圧力チェックを実施願います。配管内の異常昇圧は、本製品や感知ヘッドの破損事故を招きます。 ②本製品中央部の弁棒が所定の位置（開状態）になっていることを確認して下さい。閉じていると消火液が放出されません。 ③有資格者（消防設備士等）以外は、弁棒の操作を行わないで下さい。 所定の性能が得られなくなる恐れがあります。 ④本製品の保守点検及び部品の交換等は、設備及び機器について熟知した有資格者または専門業者が行って下さい。 ⑤次のような場合は点検業者あるいは施工業者に至急連絡相談して下さい。 ・感知ヘッド側配管内の圧力が異常上昇した場合 ・一斉開放弁より漏水、その他異常を発見した場合
-----	--

7・取扱要領

(1) 操作準備

- ①弁棒⑦をモンキー等で右にまわし全閉にして下さい。
- ②手動起動装置は全開しておきます。
- ③加圧送水ポンプを運転し、各手動起動装置より空気を排出し、連続して排水してくるようになれば配管内の排気通水は完了です。
- ④各手動起動装置を全閉して、所定の圧力にして下さい。
- ⑤YVAの弁棒⑦をモンキーで左に回し、弁体④の固定を解きます。

(2) 開放・調節

- ①手動起動装置を開きますと、YVAは開放し、二次側へ流体が流れ、開放型ヘッドから放水されます。
- ②泡消火設備等で区域毎の圧力調整が必要な場合は、ヘッドから実際に放出しながら、設定圧力より高ければ、弁棒⑦を右に回し、また低ければ、左に回して圧力調整を行って下さい。

(3) 閉 止

- ①手動起動用バルブを閉じますと、YVAは自動的に閉止します。

(4) 作動検査後の処置

- ①YVAの弁棒⑦をモンキーで右に回して、全閉にして下さい。
- ②YVAの3/4Bプラグをモンキーなどで左に回してはずし、ドレンを抜いて下さい。
- ③ドレン後、3/4Bプラグにシールテープを2～3回巻き、再び締め込んで下さい。
- ④二次側の流体も排水して下さい。
- ⑤YVAの弁棒⑦を左に回して、所定の開度に調節して下さい。



注 意

・処置の手順は間違えないようにして下さい。間違えますと、作動時に自然放水することがあります。

・主管内に気体が残っていると、YVAの作動時に、本体および弁類、配管類に損傷を及ぼす恐れがあります。

・配管内に異物が混入しますと、YVAの内部を損傷したり、ゴム類の間に挟まって、漏洩の原因になりますので、異物の混入をしないようにして下さい。